

# 植物と人々の博物館メールマガジン

第 114 号 2024 年 8 月 16 日発行



ツクツハウシも鳴き始めながら、百日紅が満開、炎暑が続き、台風も来ます。この時期になると、戦争、原爆、空襲や公害の語り部、その継承が話題になります。考えてみれば、編集子は伝統的山村の暮らし、生業、家族農耕、公害から環境教育の語り部で、やはり継承してくださる方を求めているようです。

植物と人々の博物館は社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開したいです。ご利用くださり、整理も一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、これらの資料は公共の場所を確保して、広く公開し、ご活用願いたいです。

## 1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日：9月下旬ころ、10：30～14：10 に開館します。さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整してご案内します。

担当 木俣 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

主な作業：下記に現況写真

- ①書籍・資料の整理
- ②民具の整理
- ③展示の企画：たとえば、タイの民具、自然文化誌研究会（学大探検部）50年記念
- ④植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、
- ⑤その他

## ○報告

1) 植物学関係の書籍を整理しています。森とむらの図書室は総計 8000 点ほどの資料・書籍になると思います。環境、教育、食文化や民族学、植物学関連の日本語の書籍はおおよそ移動しました。今後は、インド他の海外調査で収集してきた書籍を整理します。最終的には、海外調査で収集した書籍を整理します。

2) 自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は来 2025 年に創立 50 周年を迎えます。今までの活動履歴を示す資料集をまとめています。とりあえず、下記で一部公開しています。

<https://www.millettimplic.net/archives/historyinch2025.html>

## ○予定など

1) 民族植物学ノオト第 18 号は 2025 年 3 月末に発行する予定です。年内にご寄稿ください。また、自然文化誌研究会創立 50 周年の特集を加える予定です。これまでの記録集を整理しておきます。編集子は「希望と祈り」(仮題)で信仰論を書いてみたいのです。また、環境教育学会の歴史感想なども書きます。すべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ(下記:ミュージアムグッズの項)で読めます。意外に相当数の方々が読んでくださっています。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>

## 2) 電子書籍:

編集子の自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は、主な海外フィールド調査ノートをデータベース化して公開しました。なお、個人情報削除しています。現在、主課題の第 4 章~第 8 章までインドの雑穀農耕文化複合をまとめています。これにより、インド亜大陸をめぐる農耕文化複合の仮説を提唱します。

同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40 年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を始めました。

Windows11 は余計なものまで、勝手に入れて迷惑です、特に OneDrive。日本語音声変換もかなりお利口で、校正に時間がかかります。ドラゴンヴォイス 11 も役に立たなかったです。日本語のテープ起こしは容易ではありません。

退職後 10 年計画で進めてきた自選集全 6 巻は未完成で、やっとインドの核心地域、佳境に入りました。また、50 年の研究成果の概要をまとめとして栽培穀物の起原、栽培化過程、および伝播におけるインド亜大陸の重要な歴史的役割を解き明かし、その修正仮説を英文で要約(第 5 巻“Essentials of Ethnobotany”)するところまでは、あと数年頑張ります。とても面白いですが、1000 ピースのジグソーパズルのようで、複雑で難しいです。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

3) 公式 HP: 植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業(ndl.go.jp)で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されています。すべての記事は無料で公開しています。ここに保存されている記事は記録として残りますので、ありがたいです。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまで集成されており、とてもありがたいです。

4) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。この間、梶間さん、川口さん、井上さん他、整理にご助力いただき助かっています(現況写真)。

<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

## 5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。植物と人々の博物館へのご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしく申し上げます。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。ご希望の方には自給農耕ゼミ（佐野川）で有機無農薬により栽培したキビなどを精白／製粉して適量をお礼に差し上げます。これまでに、多くの方にご寄付を頂き、感謝しています。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

## 2. 自然文化誌研究会（学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部）

○予定の詳細は下記ホーム・ページをご覧ください。

7～8 月は冒険学校、タイ・日本クラブキャンプ、などを実施しています。

○来年は創立 50 周年ですから、運営委員会で話し合いが始まりました（7 月 23 日）。

『50 年史』をまとめるとか、50 年間に関わった人々と思いを語り合う会とか、企画が出始めました。環境学習セミナー、公開講座、冒険学校や農学校、関係市民も皆さん、何千人もが場と時を共有した東京学芸大学彩色園で、1 泊 2 日で過ごせたらよいか、あるいは小菅のキャンプ場で行うか、意見が出ています。

## 3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

## ○ 報告

①今年も宮本茶園の雑穀畑は継続しますので、種子継ぎなどの作業にご協力ください。作業予定などの連絡先は宮本さんです。8 月 4 日には防雀網を張りました。井上さん、内野さん、安孫子さんが協力くださいました。高齢者の私は休ませていただきました（写真）。収穫作業や防雀物片づけなど、お手伝いください。10 月を予定して

います。[kwangjuu1980@yahoo.co.jp](mailto:kwangjuu1980@yahoo.co.jp)

宮本茶園へのご連絡、かさねてご参加をお待ちしています。

②簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。適宜、精白、製粉して、参加者の方に差し上げます。簡単な栽培、加工、調理についてお伝えします。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀 ～とりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net)  
[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](http://farmsklec8p.pdf)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net)

詳細は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学』を検索してお読みください。

## ○予定

植物と人々の博物館は今後も継続します。標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、展示も再開します。お手伝いいただければありがたいです。

<https://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

1) 環境教育学会 (9月1日) での対面で自主課題研究を下記の通り企画しました。8月7日に打ち合わせセミナー2回目を開催しました。

参考資料準備中：

<https://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/jsee24mk/jsee2024.html>

## 2) 対話集会 (第35回日本環境教育学会大会自主課題研究) へのお誘い

この学会の準備および初代事務局長として、編集子は自然文化誌研究会のメンバーの協力を得てこの学会を創りました。もちろん、高名な先達沼田眞さんはじめ、多くの方々との共同作業でもありました。今回は、学会創業者の直言として、1年だけ会員に戻って、次の通り、一般口頭発表と自主課題研究を行います。人新世における自己家畜化に抗い、生き物の文明へと移行するために、根底的な生活様式の実践哲学としてELF環境学習過程を提案し、日本社会を復興する希望、学問について話し合いたいです。若い方たちと直接話して、反応を見たいです。提出した要旨は下記です。ぜひ、ご友人もお誘いくださり、ご参加いただき、希望を創る話し合いの輪に加わってください。プログラムが確定されましたので、ご案内します。

## 第35回日本環境教育学会大会

日時：2024年8月29日～9月1日

場所：江戸川大学、千葉県流山市

[https://www.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/601-jsfee35\\_chiba2024](https://www.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/601-jsfee35_chiba2024)

●自主課題研究 ※代表者として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

9月1日(日)：15:30～17:30(対面) 212 講義室

自主課題研究② 希望を創る環境学習を求めて(木俣美樹男ほか)

○一般発表

8月31日(土): 10:00~10:55 会場 テーマ

C 会場 223 講義室 環境学習・環境活動の影響(研究)

10:00~10:15 [31C04] 木俣美樹男 環境学習による心の構造と機能の文化的進化

\*ここで基本概念を紹介します。

## 2) 自主課題研究: 希望を創る環境学習を求めて 資料集

<https://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/jsee24mk/jsee2024.html>

\*一般発表予定案: 環境学習による心の構造と機能の文化的進化

\*学会の歴史と環境科、環境教育推進法、環境学習原論資料 などを含む

## 3) 対話進行案

○参加定員 30名程度

○9月1日、15:30~17:30 時間配分 2時間

1. 趣旨説明 木俣美樹男(自然文化誌研究会/植物と人々の博物館)

2. 全体対話 参加者に発言を多く求める 55分

指定討論者 必要に応じて

長浜和代(お茶の水大学附属お茶の水小学校)

小柳知代(東京学芸大学環境教育研究センター)

斎藤博嗣(一反百姓じねん道) ほか

4. 自由グループ対話と報告 30分

全体対話の続き 25分

5. まとめの挨拶 福田恵一(元中学校教員)

~~~~~

## 植物と人々の博物館(山梨県小菅村):

館長: 木下善晴、顧問研究員; 安孫子昭二

研究員: 木俣美樹男(東京、専任研究員、担当運営委員)、西村俊(石川、担当理事)、井村礼恵(東京、担当運営委員)、川上香(長野)、渡辺隆一(長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley(千葉)、伊能まゆ(ヴェトナム)、大澤由実(神奈川) ほか

公式HP: 自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行: 木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係HP: 生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村/ミュージアム研究会(山梨県小菅村): 代表 亀井雄次(山梨小菅村)

自然文化誌研究会: 代表 中込卓男(東京)、副代表 中込貴芳(東京)、小川泰彦(埼玉)

事務局長: 黒澤友彦(山梨県小菅村)

~~~~~

## 編集子独り言:

アバター2も美しい映像で、課題提起も深く、とても良い作品だと思います。ア

バター1 はかつて映画館で観ました。人新世の爛熟期を予見させているのでしょうか。その未来を平安にするのは、人新世初期、現在の対応にかかっており、今、環境学習が希望を創らなければ、アースにもパンドラにも平安はないでしょう。ぼくはナヴィ族になりたいです。アバター1 の関連書を購入しました。とても美しいです。

すでに社会の舞台から降りて fade away、環境教育学会での創業者としての責任は果たしました。ところが急に語り部の役を求められて、余計な語りをすることにしました。黙っているより、言って後悔した方がよいと判断したのです。きっとその境界で嫌われている古老の提言は conclusively です。環境学習は希望を再生・創造する実践理論です。ぜひ、広く誘い合い、一緒に話し合ってください。新人世における極度の自己家畜化、過剰便利はあまりに危険です。しっかり考えて、生き物の文明へとゆっくり移行したいです。

写真：

森とむらの図書室、原沢文庫の整理など。



宮本茶園の雑穀栽培見本園、防雀網張り作業。

